

人権だより

(令和7年度 夏季研修号)

川之石高校人権委員会 担当 3年次3組

2学期が始まり、体育祭も終わりましたね。今月号では、8月1日(金)に八幡浜高校で実施された「令和7年度人権委員夏季研修会」に参加した人権委員の感想をお伝えします。また、夏休みには教職員を対象にした研修会も行われ、川之石高校の先生も人権について学んできたのでその内容や感想をお伝えします。

令和7年度 人権委員夏季研修会



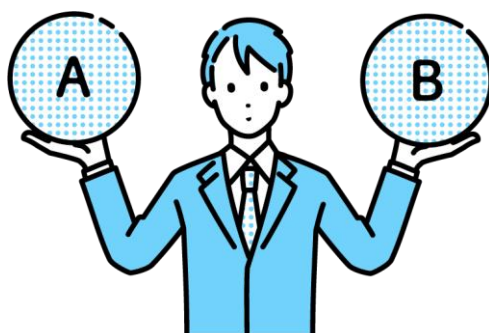
八幡浜高校のいずしね館に、川之石高校・八幡浜高校・八幡浜工業高校・三崎高校の人権委員が集まり、学習会を行いました。本校からは、委員長、副委員長、書記の人権委員が参加しました。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学副学長の桐木陽子先生による「学校教育におけるジェンダーについて～一人ひとりが個性や能力を発揮することができる学校づくりのために～」という題でお話を聞きました。どの学校の人権委員も、真剣に話を聞いて積極的に活動をし、学びを深めていました。参加した生徒の感想を紹介します。

○今回、初めてジェンダーステレオタイプについて学びました。男性は力仕事、女性は家事などといった偏った考えのほか、男子は理系、女子は文系といった高校生の進路に関わる考え方もあることを知り、自分にも関係のある問題だと感じました。

○日本のジェンダーギャップ(男女格差をあらわす指標)を見ると、世界の国々の中での順位がとても低くなっており、日本は男女格差が大きい国であることを知りました。コロナ禍の影響で、女性のDV被害や失業率の低下などの問題が増え、それがジェンダーギャップに影響していることを知りました。

○自分で好きなものを選ぶということは、自分自身の価値観を知ることにつながるということが分かりました。
ジェンダーに良い、悪いといった区別はないという言葉が印象的でした。



八幡浜市内高校新任教職員人権・同和教育現地研修会

7月30日、八幡浜市ふれあいセンターで研修会が行われ本校の先生方が参加しました。この研修は、毎年、新しく八幡浜市の高校に赴任された先生を対象に開催しており、八幡浜高校や八幡浜工業高校の先生方も参加されています。八幡浜市の人権・同和教育の取組について理解を深め、それぞれの学校で生徒の皆さんと共に差別解消や人権の大切さについて考えていくために学習する機会となっています。研修の内容や参加した先生方の感想を紹介したいと思います。



研修内容

●八幡浜市における隣保館の取組

～地域に愛され、地域住民に信頼される隣保館をめざして～

神宮通り福祉会館館長 富阪 誠二さん

隣保館の取組について学びました。隣保館は、部落差別をなくすために建てられたものです。今回、訪問したふれあいセンターは八幡浜市に3つある隣保館の1つです。ふれあいセンターのほかに、神宮通り福祉会館、保内福祉会館があります。市民に対して人権についての啓発活動を行い、人権問題を自分事としてとらえてもらえるような取組をしています。人権啓発活動の取組の一つとして、市内の3高校にて行われる人権講演会があり、様々な人権問題について考えるきっかけになっています。

●講話 人として～学びのちから～

ふれあいセンター館長 登口 加代さん

登口さんは、ご自身の体験を元に各地で講演を行っています。我が子に部落差別のことを伝える時の葛藤した気持ちや、お子さんが直面した結婚差別についてお話を聞きました。こんなにつらい経験をしたからこそ、自分と同じように差別で苦しむ人がなくなるよう、この仕事に取り組みんでおりこれからも正しい知識を学び活動していきたい、と力強く語られていました。「人権教育」とは、生きていくために一番必要な教育だということを最後におっしゃられていました。

◆研修に参加した先生方の感想を紹介します。

- ・教育活動のすべてにおいて、人権教育を意識し、差別を生まないようにしていきたい。
- ・差別は間違っていると自信を持って生徒に伝えていきたい。
- ・差別について正しく行動していくためには、まず世の中のことを正確に理解することが重要になると感じた。
- ・自分らしさや、その人らしさを尊重できる生徒を育てていきたい。